

令和5年度（2023年度）

広島平和の旅 報告集

令和5年8月5日（土）～8月6日（日）



西東京市

も く じ

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって	1
平和宣言	2
平和への誓い	4
参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子	5
被爆体験伝承者による講話	8
主な見学先ガイド	9
広島平和記念公園 周辺ガイドMAP	11
感想文	12
非核・平和都市宣言（西東京市）	26

「広島平和の旅」 報告集発行にあたって

西東京市は、平成 13 年（2001 年）1 月 21 日、旧田無市と旧保谷市との合併と同時に、「西東京市平和推進に関する条例」を制定しました。翌年の平成 14 年（2002 年）1 月 21 日には、「非核・平和都市宣言」を行い、毎年 4 月 12 日の「西東京市平和の日」をはじめとした様々な機会に、戦争体験を次世代に継承する取り組みや、平和の意義を考えていく事業を行っています。

被爆都市へ公募市民と共に訪問する事業は、平和事業の推進・啓発活動の一環として、平成 13 年度（2001 年度）から実施しています。

広島・長崎への原爆投下、そして終戦から 78 年が経過しました。戦争を知る世代が次第に少なくなり、戦争の記憶が薄れることが危惧されています。

今年は合計 8 人の市民の方々が広島を訪れました。平和記念式典への参列をはじめ、原爆ドームや平和記念資料館の見学、被爆体験者の講話等をとおして、原爆や戦争がもたらす悲惨さや平和の大切さ、命の尊さについての理解を深め、この時期に広島を訪れることの意味を改めて考えるなど、多くの体験を持ち帰りました。

この報告集は、旅の様子や参加者の皆さんが得たことを多くの方に共有していただけるよう纏めたものです。この報告集が、平和を考えるきっかけになれば幸いです。

令和 5 年 8 月

西東京市

平和宣言

78年前の原爆投下の日を、まるで生き地獄のようだったと振り返る当時8歳の被爆者は、「核兵器を保持する国の指導者たちは、広島、長崎の地を訪ね、自らの目で、耳で、被爆の実相を知る努力をしていただきたい。あの日、熱線で灼(や)かれ、瞬時に失われた命、誰からも看取られず、やけどや放射能症で苦しみながら失われていった命。こうして失われた数え切れない多数の人々の命の重さを、この地で感じてもらいたい。」と訴えています。

本年5月のG7広島サミットで各国首脳が平和記念資料館の視察や被爆者との対話を経て記帳された芳名録は、こうした被爆者の願いが各国首脳の心に届いていることの証しになると思います。また、慰霊碑を参拝された各国首脳に私から直接お伝えした碑文に込められた思い、すなわち、過去の悲しみに耐え、憎しみを乗り越えて、全人類の共存と繁栄を願い、真の世界平和を祈念する「ヒロシマの心」は、皆さんの心に深く刻まれているものと思います。こうした中、G7で初めて「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」が独立の文書としてまとめられ、全ての者にとっての安全が損なわれない形での核兵器のない世界の実現が究極の目標であることが再確認されました。それとともに、各国は、核兵器が存在する限りにおいて、それを防衛目的に役立てるべきであるとの前提で安全保障政策をとっているとの考えが示されました。

しかし、核による威嚇を行う為政者がいるという現実を踏まえるならば、世界中の指導者は、核抑止論は破綻しているということ直視し、私たちを厳しい現実から理想へと導くための具体的な取組を早急に始める必要があるのではないのでしょうか。市民社会においては、一人一人が、被爆者の「こんな思いは他の誰にもさせてはならない」というメッセージに込められた人類愛や寛容の精神を共有するとともに、個人の尊厳や安全が損なわれない平和な世界の実現に向け、為政者に核抑止論から脱却を促すことがますます重要になっています。

かつて祖国インドの独立を達成するための活動において非暴力を貫いたガンジーは、「非暴力は人間に与えられた最大の武器であり、人間が発明した最強の武器よりも強い力を持つ」との言葉を残しています。また、国連総会では、平和に焦点を当てた国連文書として「平和の文化に関する行動計画」が採択されています。今、起こっている戦争を一刻も早く終結させるためには、世界中の為政者が、こうした言葉や行動計画を踏まえて行動するとともに、私たちもそれに呼応して立ち上がる必要があります。

そのため、例えば、私たちが日常生活の中で言葉や国籍、信条や性別を超えて感動を分かち合える音楽や美術、スポーツなどに接し、あるいは参加して「夢や希望がある」といった気持ちになれるような社会環境を整えることが重要となります。皆さん、そうした社会環境を整えるために、世界中に「平和文化」を根付かせる取組を広めていきましょう。そうすれば、市民の支持を必要とする為政者は、必ずや市民と共に平和な世界に向けて行動するようになることを確信しています。

広島市は、世界166か国・地域の8,200を超える平和首長会議の加盟都市と共に、市民レベルでの交流を通して「平和文化」を世界中に広めます。そして、平和を願う私たちの総意が為政者の心に届き、武力によらず平和を維持する国際社会が実現する環境を作ることを目指しています。また、被爆者の平和への思いを世界中の若者に知ってもらい、国境を越えて広め、次世代に引き継げるようにするために、被爆の実相に関する本市の取組をさらに拡充していきます。

各国の為政者には、G7広島サミットに訪れた各国首脳に続き、広島を訪れ、平和への思いを発信していただきたい。その上で、市民社会が求める理想の実現に向け、核による威嚇を直ちに停止し、対話を通じた信頼関係に基づく安全保障体制の構築に向けて一歩を踏み出すことを強く求めます。

日本政府には、被爆者を始めとする平和を願う国民の思いをしっかりと受け止め、核保有国と非核保有国との間で現に生じている分断を解消する橋渡し役を果たしていただきたい。そして、一刻も早く核兵器禁止条約の締約国となり、核兵器廃絶に向けた議論の共通基盤の形成に尽力するために、まずは本年11月に開催される第2回締約国会議にオブザーバー参加していただきたい。また、平均年齢が85歳を超え、心身に悪影響を及ぼす放射線により、生活面で様々な苦しみを抱える多くの被爆者の苦悩に寄り添い、被爆者支援策を充実することを強く求めます。

本日、被爆78周年の平和記念式典に当たり、原爆犠牲者の御霊に心から哀悼の誠を捧げるとともに、核兵器廃絶とその先にある世界恒久平和の実現に向け、被爆地長崎、そして思いを同じくする世界の人々と共に力を尽くすことを誓います。

令和5年（2023年）8月6日

広島市長 松井 一實

平和への誓い

みなさんにとって「平和」とは何ですか。
争いや戦争がないこと。
差別をせず、違いを認め合うこと。
悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。
身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日 午前8時15分。
耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。
皮膚が垂れ下がり、血だらけとなって川面に浮かぶ死体。
子どもの名前を呼び、「目を開けて。目を開けて。」と、叫び続ける母親。
たった一発の爆弾により、一瞬にして広島のみちは破壊され、悲しみで埋め尽くされました。

「なぜ、自分は生き残ったのか。」
仲間を失った私の曾祖父は、そう言って自分を責めました。
原子爆弾は、生き延びた人々にも心に深い傷を負わせ、
生きていくことへの苦しみを与え続けたのです。

あれから78年が経ちました。
今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。
「生き残ってくれてありがとう。」
命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。
自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。
友だちのよいところを見つけること。
みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。
被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。
身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。
誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

令和5年（2023年）8月6日

こども代表 広島市立牛田小学校 6年 勝岡 英玲奈
広島市立五日市東小学校 6年 米廣 朋留

参加者・旅程・事前学習会・旅先での様子

参加者

○村岡 由理子さん ○村岡 凜太郎さん ○白戸 円さん ○白戸 花奈さん
 ○徳永 恵美さん ○徳永 咲愛さん ○徳永 瑛士さん ○永山 そらさん
 計8人

旅程

■1日目 8月5日(土)		■2日目 8月6日(日)	
時間	内容	時間	内容
08:30	東京駅より新幹線で広島へ	08:00	平和記念式典参列、献花
12:27	広島駅到着	10:00	本川小学校平和資料館 見学
13:00	原爆ドーム、原爆の子の像、 平和記念資料館 見学	14:29	広島駅より新幹線で東京へ
		18:24	東京駅到着 解散

事前学習会

7月25日(火)の午前10時から、広島平和の旅がより意義深いものになるように、事前学習会を行いました。

旅の主旨、行程、報告会等についての説明に加え、「非核・平和をすすめる西東京市民の会」の山本会長をお招きし、自身が広島に訪れた経験を交えながら、広島と長崎に落とされた原爆について話していただきました。

また、事前学習会のなかでは、被爆体験の伝承活動をしている青木圭子さんをZoomでお招きし、梶本淑子さんの被爆体験を通して「戦争を絶対にはいけない、命を大切にしてほしい」という思いをお伺いしました(※講話の詳細は、P.8「被爆体験伝承者による講話」をご覧ください)。

○1日目

広島へ出発

8月5日土曜日の朝、東京駅に集合し、新幹線で広島へ向かいました。今年
は全国的に猛暑が続き、広島も大変暑く、日傘をさしながら移動する姿が印象
的でした。

原爆ドーム、原爆の子の像、平和記念資料館の見学

広島に到着後、ホテルへ荷物を預け、
路面電車に乗り、平和記念公園へ向かい
ました。

路面電車の原爆ドーム前駅で下車し、
目の前に平和記念公園が広がります。
公園入口のすぐ側に原爆ドームが見え、
広島の日常に溶け込んでいることを感
じさせます。また、原爆の子の像や平和



記念資料館を訪れ、被爆した遺品等を見学しました。平和記念資料館では、原
爆投下時のプロジェクションマッピングが紹介され、被害の様子について、参
加者は真摯に受け止めていました。

○2日目

平和記念式典への参列

翌6日も猛暑でした。帽子・日傘等の熱中症をとりながら平和記念式典に参
加しました。

令和5年度は、新型コロナウイルス以前の規模にて式
典が行われました。日本各地からはもちろん、外国から
も多くの参列者が訪れ、平和への思いをもった大勢の人
であふれていました。式典では、原爆死没者の名簿が奉
納され、午前8時15分に平和への祈りと被爆者への
慰霊の念を込めて、黙とうを捧げました。広島市長によ
る「平和宣言」、こども代表による「平和への誓い」に
加え、国際連合事務総長のメッセージ（代読）を聞き、
世界中が平和になることへの思いを新たにしました。



式典終了後には、犠牲となった方々のご冥福と平和への願いを込めて慰霊碑
に献花しました。式典に参加した参加者からは、式典で発せられた平和への決
意を実際に聞いたことで自分には何ができるのか、平和とは何なのかを改めて
考える時間になったという声もありました。

本川小学校平和資料館の見学

平和記念式典後の献花を終え、徒歩で本川小学校平和記念資料館へ向かいました。爆心地に最も近い小学校として、被爆した状態のまま校舎の一部が保存されています。小・中学生の見学者も多く、共感する部分も多かったのではないかと思います。



〇終わりに

2日間とも晴天に恵まれ、厳しい暑さの中で行われた広島平和の旅でしたが、参加された方々のご協力によって、無事に全行程を終えることができました。

今回の旅が、平和な社会を築くための糧になることを祈りつつ、参加者一同が帰路につきました。

被爆体験伝承者による講話

講師 あおき けいこ 青木 圭子さん

日時 令和5年7月25日（火） 午前11時00分～11時50分

青木さんは、2000年4月からヒロシマピースボランティアとして、広島平和記念資料館の解説や平和記念公園の碑めぐりのガイドをしています。その中で原爆について学び、多くの被爆者の方に出会い、平和について考えてきました。2015年4月からは被爆体験伝承者の制度が始まり、その1期生として活動しています。身内に被爆者はいませんが、梶本 淑子（かじもと よしこ）さんの被爆体験をとおして「戦争を絶対にしてはいけない、命を大切にしてください」という思いを伝えていただきました。

梶本さんは1931年に生まれ、小学校5年生の時にハワイへの真珠湾攻撃が起こり、太平洋戦争に突入していきました。当時、学校で戦争はアジアの平和のためのものと教えられ、正義の戦争とされました。中には戦争に反対する人々もいましたが犯罪者とされ、投獄されました。

広島への原爆投下により、梶本さんは工場建物の下敷きになりました。引き抜く際、足が裂けて大量出血しましたが、逃げられる喜びが勝り、痛みは覚えていないそうです。

瓦礫を持ち上げ、友人を助けました。火事が迫っていたため、担架で運びます。数百メートルでしたが、とても重たく、長い道のりでした。周りにはたくさんさんの死体が転がっていました。とても恐ろしい光景でした。

数日経ち、実家に帰ろうと歩いていると、ばったり父親と出会いました。父親は、原爆が落とされた日から梶本さんの名前を呼びながら工場跡地を探していました。女学生の死体を見つけると、我が子ではないかと抱き起こして確かめましたが、半分諦めていたそうです。

それから1年半が過ぎ、怪我や火傷もなかった父親は亡くなりました。大量の放射線を浴びたことが原因と思われます。放射線が恐ろしいのは、残留放射線により被害がまだ終わっていないことです。梶本さんや友人もがんに苦しみました。

梶本さんは、「地獄を二度と見たくない。皆さんに見せたくない。これからの人が死体をまたいで逃げるような、そんなことは絶対にあってはいけない」と語っています。

参加者は、被爆体験伝承者の話を聞き入っていました。原爆の恐ろしさと、戦争の悲惨さを痛感し、平和の重要性を再認識したようでした。

主な見学先ガイド

●平和記念公園

戦後、世界の恒久平和の願いを込めて、この記念公園が建設されました。公園内には、平和記念資料館、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館などの施設や、原爆死没者慰霊碑をはじめとするモニュメントがあります。



●広島平和記念資料館

原爆の被害の実態を伝える資料を収集・展示し、広島で起こったこと、平和の尊さと核兵器の脅威を紹介しています。



●原爆ドーム

チェコの建設家ヤン・レツルの設計により、大正4年（1915年）に開館したこの建物は、被爆前は「広島県産業奨励館」でした。原爆は、ここから南東160mの上空約580mで炸裂し、建物は廃墟の残骸となりました。

平成8年（1996年）、ユネスコの世界遺産に登録されました。



●原爆死没者慰霊碑(公式名:広島平和都市記念碑)

平和記念公園のほぼ中央にあるこの慰霊碑は、原爆犠牲者の霊を雨露から守る願いを込めて、家型ハニワに設計されました。石室には、原爆死没者名簿が納められています。



●原爆の子の像

この像は、原爆性白血病により 12 歳で亡くなった佐々木禎子さんの霊を慰め、世界平和を呼びかけるため、昭和 33 年(1958 年)に建設されました。たくさんの千羽鶴が捧げられています。



●本川小学校平和資料館

爆心地に最も近い学校として、原爆の被害を受けた状態をそのまま残し、被爆の「証」として保存されています。「展示室」には、被害の様子が載った写真や、被爆した遺物があります。



広島平和記念公園 周辺ガイドMAP



感想文

広島平和の旅に参加した皆さんが、それぞれの想いを胸に、被爆地広島を訪れました。そして、たくさんの方を見て・聞いて・感じてきました。

ここには、広島平和の旅を通して印象に残ったことを、ありのままに書いていただきました。

今回、旅に参加した皆さんには、広島はどう映り、何を感じたのでしょうか。



※原則として、感想文などは原文のまま掲載しています。

ずっと語り継いでいかなくてはいけないもの

村岡 由理子

我が家は転勤族。4年前まで数年間、広島に住んでいた。原爆ドームや平和記念資料館等が街中にあり、子どもが保育園に通っている頃から絵本で原爆が落ちたことを読み聞かされ、小学校では8月6日は登校日で平和学習を行う。広島市内の6年生全員が平和についての作文を書き、選考委員が平和記念式典で作文を読む代表を決める。8月6日8時15分になると街全体にサイレンがなり、保育園、学校、病院等で黙とうのアナウンスが流れ、1分間黙とうする。広島ではそれが当たり前の生活となっている。東京で生まれ育った私は教科書の中での出来事としてしか捉えられなかったが、実際に住んでみて、継承していくことの大切さを感じた。

今回、市報で「広島平和の旅」のことを知り応募した。子どもに今の広島に対する思いを改めて感じてほしいと思ったからだ。

旅の中では、住んでいた時には行ったことがない、存在すら知らなかった本川小学校。被爆した当時のまま残されていた。爆心地から約410mと最も近い小学校。児童400人のうち、先生1人と児童1人のみが奇跡的に助かったとのこと。奇跡的に助かったとはいえ、友だちは皆被爆し、いなくなった。町は焼け野原で何が起こったのかもわからず状況を把握するのが大変だったと想像する。その中で、生きていくことの意味、未来はあるのかと考えながらも必死に生きてくれた方々がいるからこそ今がある。

78年前に広島であった事実を語り継いで、2度と同じ事を繰り返してはいけない。そんな思いを改めて胸に抱いた。今回の旅で得たものは大きく、息子と初めての旅は楽しい思い出となった。



旅に参加する前の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅

- 9割が広島カープファン
- もみじまんじゅうを販売している店が全国1位
- 幼小期から原爆について学ぶ環境がある
- けん五祭祥の地 → 皆、けん五ができる
- 方言がきつい
- 市内は路面電車が発達している



旅に参加した後の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅

- 広島平和記念式典には世界各国、日本中から参加している
- 8/5、6の平和記念公園、平和記念資料館の人口密度がおそらく1年の中で1番多い
- 方言は話す人によってきつく感じたり、かわいく感じる(子どもが話すとかわいい)



戦争の中で

村岡 凜太郎

ぼくは、広島の旅で知ったことが、あります。

1つ目は、原爆ドームが78年間あることです。

理由は、78年間あるのにくずれなくて、すごいなと思いました。

2つ目は、原爆の子の像がすごいなと思いました。

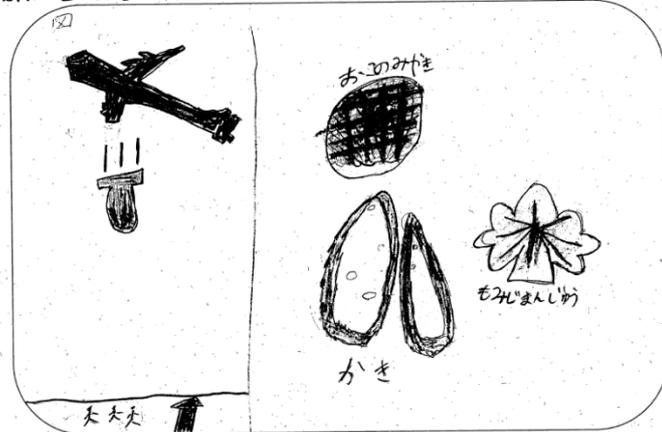
理由は、干ばつるの数がとても多かったからです。

ぼくが広島に、すんでいたときは（6さい位の時）8月6日8時15分になると町じゅうにサイレンが鳴りひびいて、ほいくえんで、1分間もくとうした覚えがあります。またもくとうをやって、亡くなった人にお礼をしてこんなんだったなーとまた感じました。



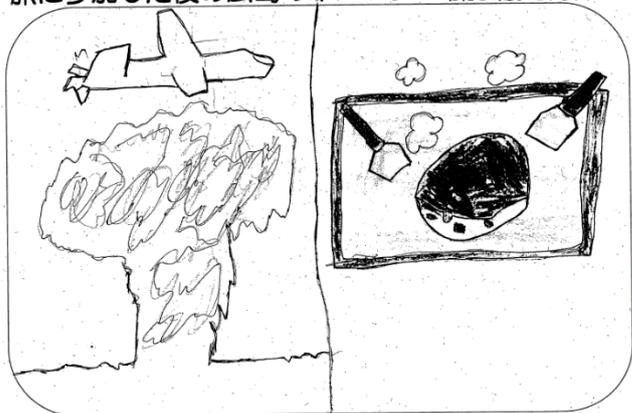
旅に参加する前の広島のイメージ

令和5年度 広島平和の旅



旅に参加した後の広島のイメージ

令和5年度 広島平和の旅



平和の旅

徳永 恵美

いつも利用している中央図書館の掲示物で、この「広島平和の旅」を知りました。映像や写真で原爆ドームを見たことはありますが、実際に見てみたいと応募したところ、娘と息子と3人で参加できることになりました。

初めて見る原爆ドーム、その姿を美しいけれど崩壊していて、圧倒的だけれど怖いように感じました。間近で見ると、鉄骨が剥き出しになっていたり、地面には崩れ落ちた壁らしき物がたくさんありました。

平和記念資料館は、薄暗い空間の中、展示物を見るのは怖くて不安でした。しかし、娘は一人で自分のペースで見学し、息子も怖がる事なく、写真や絵などをじっくり見て、説明文まできちんと読んでいることに驚きました。

幼い頃から読書が好きだった私は、佐々木禎子さんの本も読んだことがありました。本川小学校にたくさんの展示がされていた千羽鶴の作品を見て平和・健康への願いが思い出されました。息子に「お勉強している間に爆弾が落ちたらママに会えないね」と話したら「ママは探して迎えに来てくれるでしょ」と言いました。あの頃の子供達もこんな風に思って待っていたのかもしれないと思いました。

平和記念式典に参列し、8時15分に1分間、黙祷を捧げました。暑くてセミの鳴き声が響いていました。1分後、瞳を開け、空を見上げました。青空と真っ白な雲がありました。78年前、もっと暑かっただろうし、真っ暗な空と真っ黒な雲だったのかなあと想像したら涙が流れました。空と雲がとても綺麗に見えたからかもしれません。

広島は日常の中に原爆があり、平和がありました。平和の旅に参加出来た事で、私が守れる平和を確信しました。それは、家族です。家族の日常を守れたら自ずと平和が続いていきます。

家族を守る為には、周りの人達、環境にも気を遣います。そうすると、守るべき平和が少しずつ増えていきます。少しずつ増やしていく、そんな風に平和を守りたいと平和の旅を通して思いました。

旅に参加する前の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅



原爆ドーム
もみじまんじゅう
千羽鶴

旅に参加した後の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅

広島電鉄
平和
お好み焼(麺が入っている)
厳島神社



広島に行って思ったこと

徳永 咲愛

広島原爆の被害を僅か 160m 程の位置で受けたという原爆ドームを見た。周りの建物は現代的なのに、原爆ドームは原爆投下の 78 年前からまるで時間が止まったかのようにれんがやがれきが落ちたままになっていた。

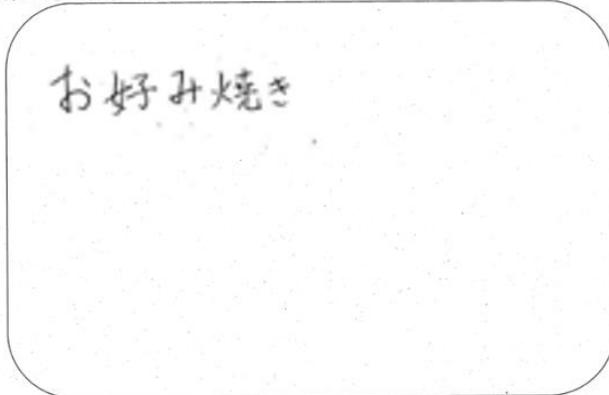
それは、当時の惨劇がそのまま写し取られている風を感じられた。また、周りの建物や人が全て消え失せたのに対して原爆ドームはかなり形が残っていて不思議な建物だなと思った。

次に、広島平和記念資料館を訪れた。資料館には当時の遺品や写真が展示されており、言葉を介さずにも原爆の恐怖や残酷さが伝わってきた。ぼろぼろになった服を見ると、それを着ていた人のことが想像できて居たたまれない気持ちになった。

平和記念式典では、小学 6 年生の「平和への誓い」が印象に残った。小学生だというのに、平和についてよく考えているなと思ったからだ。私もそれを見習って戦争についてより深く理解し、考えていきたいなと思う。最後に、被爆経験者の平均年齢が 85 歳を超え、語り部達の人数は年々減ってきているらしい。原爆を想像ではなく、経験として詳しい状況に感情を交えつつ、話せるのは語り部だけである。そのため、語り部の言葉が後世でも薄れることのないように今を生きる私達が言葉を歪曲することなく、後の世代へとつなげていく必要があると感じた。

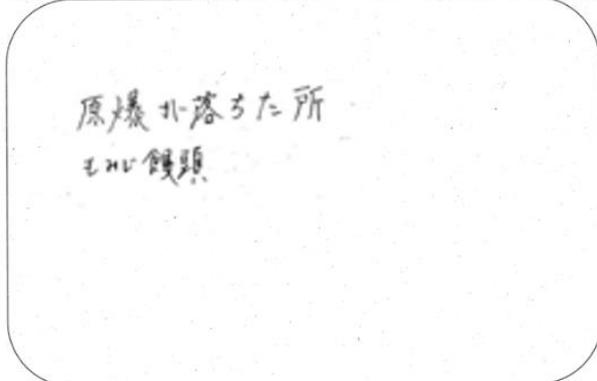
旅に参加する前の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅



旅に参加した後の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅



広島まで行って思ったこと

徳永 瑛士

ぼくが広島に行っておどろいたことは、地面に電車が走っていることと原子ばくだんが落ちていたということです。地面を通っている電車の名前が路面電車だったり、その電車にのれてうれしかったです。

こわかったことは、広島平和記念資料館です。絵と説明文がこわかったです。原ばくドームのほねぐみだけのこっていたのがふしぎでした。

本川小学校にあったつるでできた文字や絵がすごかったです。

思ったことはもみじまんじゅうがおいしかったり、お好みやきにやきそばが入っているのにおどろきました。

広島は路面電車が原ばくドーム、広島平和記念資料館、本川小学校などの、広島までしか見れない物がたくさんあって楽しかったけれど、かなしいことも、たくさんありました。広島に行くことで、たくさんのが知れてよかったです。



旅に参加する前の広島のイメージ

令和5年度 広島平和の旅

おこのみやき

旅に参加した後の広島のイメージ

令和5年度 広島平和の旅

もみじまんじゅう
おこのみやき



平和への思い

白戸 円

平和記念式典は 8 時からでした。7 時 15 分には席につき、時間があってのでトイレに並びました。大勢が式典に参加するため、トイレも非常に込んでいて長蛇の列でした。幸い日陰でしたが、当日はお天気も良く朝といえども暑さも感じる日でした。列に並びながら、周りを見渡すと、ただ立っている人が目につきました。トイレの列とは全く関係ない場所で、熱い中、ずっと立っている人がいる。誰かと連れ立って来ている様子でもなく、ただ一人でじっと立っている。この人は何をしているのだろうかと思いを巡らし、記念式典を見るために来た人と気づきました。私たちはテントが張られ、パイプ椅子が用意された場所で参加するのですが、その人は式典の約 1 時間前から、そしておそらく、毎年、壇上がよく見えるその場所から参加しているのだと思い、平和への思いの強さを感じました。

会場は前日にはテントが張られており、リハーサルなども行われていました。当日は手荷物検査や式典のパンフレットの配布、冷水の無料配布、冷たいお絞りのサービスなど様々な対応がスムーズに行われていました。これだけの規模の、要人も参加する式典を毎年開催することは非常に労力がかかるだろうと思った一方、その労力をかけてでも続けなければならないという人々の思いに、胸が締め付けられました。

今回の「広島平和の旅」に参加することを主人が広島出身の同僚に話していたのですが、旅行の後、娘と私が献花をしてきたことを話すと「ありがとうございました」と言われたとのことでした。広島の人々の魂に刻まれたような平和への願い、原爆への思いなどを身近でも感じた出来事でした。

今回の旅は、広島の人々と私の間には平和への思いや原爆への思いに大きな差があることを認識した旅となりました。しかし、この差はあるべきものではなく、寧ろなくしていかなければならないと感じました。

旅に参加する前の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅



空が広い
原爆が落ちた
路面電車が走っている

旅に参加した後の広島イメージ

令和5年度 広島平和の旅

平和への思いが強い町
平和を思う・考える人が集まる町



広島で感じたこと

白戸 花奈

資料館では、ばくはつによってけがをした人の写真が暗い所にあったけど、よく見てみたら、目と鼻がない人や放射線のせいで髪がない姉と弟など、私になりたくない姿になってしまった人の写真がたくさんあって悲しくなりました。

別の所では、ばくだんのしくみなどをタッチパネルでいろいろ学びました。とてもわかりやすかったです。本川小学校では、とけたガラスのかたまりやボロボロになったかんづめ、大量の千羽づるなどとてもたくさんのものでありました。私はこの建物がばくだんが落とされる前から建っていたのにびっくりしました。原爆の子の像の周りにはいろいろな県の人々が作った千羽づるがたくさんあって、多くの人々が平和をねがっているのにおどろきました。広島に落とされたげんばくではかいされた広島を多くの人に知ってもらうために活動している人の力はすごいと思いました。



旅に参加する前の広島のイメージ 令和5年度 広島平和の旅

広島は、ばくだんかおとされてまだそのあとかのこっているところがあるから大人

旅に参加した後の広島のイメージ 令和5年度 広島平和の旅

広島は、ばくだんかおとされて広島の人々も平和へのねがいがつよい



私が初めて広島の旅で思ったこと

永山 そら

私は小学校中学年くらいの時から第二次世界大戦や原爆の事に興味がありました。学校の教科書や物語などで原爆の事は知っていましたがいつか広島の地に足を運び、もっともっと知識を深めたいなと思っていたので今回このような機会を頂き、念願の広島の地に行かれたことに感謝します。

資料館や原爆ドームを生で見ることができ、平和記念式典にまで参加出来たことはとても有意義な時間となりました。今回の旅で私は沢山の事を学びました。

1つ目は、被曝後すぐは何事も無く済んでいた人々も、何年もの月日を経てその影響が及ぼす事があるということです。被爆してすぐに白血病や癌にかかるものだと思っていたので驚きました。

2つ目は、広島に原爆を落とした理由です。広島は連合軍の捕虜収容所がないからという事を知り、なるほどなと感じました。

しかし、どんな理由があろうとも沢山の人々を殺す事なんて絶対やってはいけない事だし今も多くの方が戦争の犠牲者となり苦しんでいます。

資料館で目にしたものは紛れもない真実の出来事ですが目を逸らしたくなるほど怖い資料も沢山あって、足が震え上がりました。戦争は未来ある人々の命を奪います。今も遠い国では戦争が繰り返されています。どうか1日も早く争いが終結しますように。

この悲しい歴史が繰り返されないことが大事なんだと思います。それはこれからの時代を生きていく私たち1人1人の意識で変わっていくはずです。大切な未来をみんなで守っていきたいです。そんな祈りが深まった今回の旅でした。

最後に、今回の旅で私は唯一の1人参加でした。けど同行者の皆さんが本当に親切で優しくて、とても安心できました。2日間有難うございました。感謝でいっぱいです。

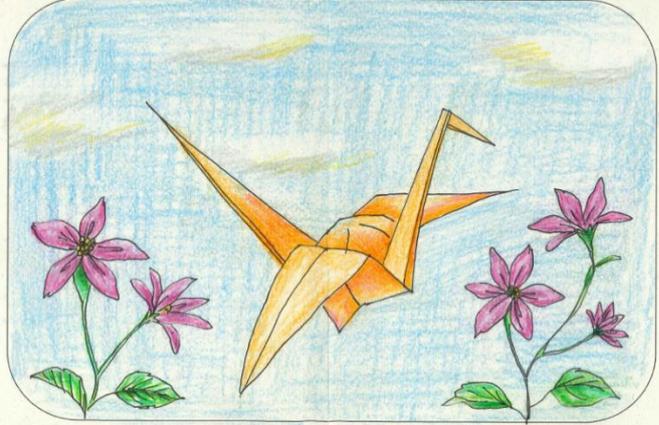
またご縁がありましたら嬉しく思います。有意義で思い出に残る旅でした。



旅に参加する前の広島イメージ 令和5年度 広島平和の旅



旅に参加した後の広島イメージ 令和5年度 広島平和の旅



非核・平和都市宣言

私たちは生きている。

おおくの人々が、それぞれの習慣や宗教をもち
様々な考え方と、異なる環境の下で生活している
この地球で

私たちは持っている。

この地球上で、健康で幸せな生活をする権利を
異なる考え方の人々を差別しない義務を

私たちは知っている。

おおくの人々が、今なお戦争で傷つき命を失っていることを
住みなれた平和な生活の場を追われて飢えていることを

私たちは訴える。

必要なのは笑顔での話し合いであることを
必要なのは人類愛と思いやりであることを

私たちは宣言する。

あらゆる人を傷つける地雷や武器をなくすことを
あらゆるものの破滅を招く核兵器をなくすことを
地球上から戦争をなくすことを

私たち市民のこの声と願いを

世界に広く訴えるために

非核・平和都市 西東京市の
宣言とする。

平成14年1月21日

西 東 京 市



「広島平和の旅」報告集

令和5年8月

編集・発行

西東京市 生活文化スポーツ部 協働コミュニティ課